平成30年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年８月３日

上 場 会 社 名　セガサミーホールディングス株式会社　上場取引所　東
コ ー ド 番 号　6460　URL　http://www.segasammy.co.jp
代　表　者　(役職名) 代表取締役社長COO　(氏名) 里見 治紀
問合せ先責任者　(役職名) 上席執行役員財務経理本部長　(氏名) 大脇 洋一　(TEL) 03-6215-9955
四半期報告書提出予定日　平成29年８月10日　配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：有
四半期決算説明会開催の有無　：有　(　アナリスト向け電話会議　)

(百万円未満切捨て)

１．平成30年３月期第１四半期の連結業績（平成29年４月１日～平成29年６月30日）

（１）連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年３月期第１四半期	107,277	51.9	16,618	443.9	16,250	444.3	11,536	180.6
29年３月期第１四半期	70,634	33.4	3,055	―	2,985	―	4,111	―

(注) 包括利益 30年３月期第１四半期　14,184百万円(　―%)　29年３月期第１四半期　△5,459百万円(　―%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
30年３月期第１四半期	49.22	49.10
29年３月期第１四半期	17.54	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年３月期第１四半期	507,609	318,898	62.5
29年３月期	521,599	311,497	59.0

(参考) 自己資本 30年３月期第１四半期 317,170百万円　29年３月期 307,764百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
29年３月期	―	20.00	―	20.00	40.00
30年３月期	―				
30年３月期(予想)		20.00	―	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．平成30年３月期の連結業績予想（平成29年４月１日～平成30年３月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	380,000	3.6	20,000	△32.3	16,000	△43.9	11,000	△60.2	46.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　：無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規　—社（社名）—　、除外　—社（社名）—

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：有

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年３月期１Ｑ	266,229,476株	29年３月期	266,229,476株
②　期末自己株式数	30年３月期１Ｑ	31,843,473株	29年３月期	31,841,869株
③　期中平均株式数（四半期累計）	30年３月期１Ｑ	234,386,923株	29年３月期１Ｑ	234,393,962株

※　四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料５ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社は、平成29年８月４日にアナリスト向けの電話会議を開催する予定です。その説明資料については、電話会議当日に当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 5
２．サマリー情報(注記事項)に関する事項 …… 6
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 6
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 6
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 6
（４）追加情報 …… 6
３．四半期連結財務諸表 …… 7
（１）四半期連結貸借対照表 …… 7
（２）四半期連結損益及び包括利益計算書 …… 9
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（セグメント情報等） …… 12

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

	前年同期 連結累計期間	当第１四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	70,634	107,277	36,643	51.9
営業利益	3,055	16,618	13,563	443.9
経常利益	2,985	16,250	13,264	444.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,111	11,536	7,425	180.6
	円	円	円	%
１株当たり四半期純利益	17.54	49.22	31.68	180.6

遊技機業界におきましては、パチスロ遊技機市場において、新基準機の販売が低調に推移する傾向が続いております。また、パチンコ遊技機市場におきましては、一部の実績あるシリーズ機を中心に高い評価を受けるタイトルが登場してきております。今後の市場活性化に向けては、幅広いエンドユーザーに支持される機械の開発、供給等が求められております。

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境につきましては、スマートデバイス向けなどのデジタルゲーム市場において、国内におけるスマートフォン普及の鈍化、及び有力パブリッシャーの優位性が増していることから、より品質の高いコンテンツの供給が求められており、開発期間の長期化や運営費用が増加傾向にあります。一方、海外におきましては、アジアを中心に今後の成長が期待されております。パッケージゲーム市場におきましては、家庭用ゲーム機の現世代ハードに加え、新世代ハードの普及による今後の市場拡大に期待が高まっているほか、欧米及びアジアでは、PC向けゲームが大きな市場を形成しております。アミューズメント施設・機器市場につきましては、ビデオゲームやプライズを中心に、施設稼働の向上やユーザー層拡大の兆しが表れております。

リゾート業界におきましては、訪日外国人数の伸び率は鈍化しているものの増加傾向にあり、ホテルの客室稼働率は引き続き上昇傾向にあります。また、観光立国の実現に向けて、『特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律案（IR推進法案）』が国会で成立し、公布、施行されました。

このような経営環境のもと、当第１四半期連結累計期間における売上高は1,072億77百万円（前年同期比51.9％増）、営業利益は166億18百万円（前年同期比443.9％増）、経常利益は162億50百万円（前年同期比444.3％増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は115億36百万円（前年同期比180.6％増）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。
なお、文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

《遊技機事業》

	前年同期 連結累計期間	当第１四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	21,239	54,935	33,696	158.6
セグメント間売上高	121	158	－	－
売上高合計	21,360	55,094	33,733	157.9
営業利益	343	15,104	14,761	－

パチスロ遊技機におきましては、当第１四半期において、前作よりゲーム性が大幅に進化した『パチスロ獣王 王者の覚醒』等の販売を行い25千台の販売となりました（前年同期は29千台の販売）。パチンコ遊技機におきましては、主に主力タイトル『北斗の拳』シリーズの新作『ぱちんこＣＲ北斗の拳７ 転生』の販売が好調に推移したことから、97千台の販売となりました（前年同期は20千台の販売）。

以上の結果、売上高は549億35百万円（前年同期比158.6％増）、営業利益は151億４百万円（前年同期は営業利益３億43百万円）となりました。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前年同期 連結累計期間	当第１四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	46,700	50,278	3,578	7.7
セグメント間売上高	121	185	－	－
売上高合計	46,821	50,464	3,643	7.8
営業利益	4,941	3,717	△1,224	△24.8

デジタルゲーム分野において、配信開始から５周年を迎えた『ファンタシースターオンライン2』が引き続き堅調に推移いたしました。スマートデバイス向けタイトルにおきましては、『オルタンシア・サーガ -蒼の騎士団-』、『ぷよぷよ!!クエスト』等の既存主力タイトルを中心に、各種イベントやアップデート等を実施いたしました。

パッケージゲーム分野におきましては、全世界での累計出荷数150万本を突破した、アトラスの新作タイトル『ペルソナ5』の海外展開が好調に推移したほか、PCゲームの新作『Endless Space 2』、『Warhammer 40,000: Dawn of War III』等を発売し、販売本数は456万本(前年同期は241万本の販売)となりました。

アミューズメント機器分野におきましては、『艦これアーケード』等のレベニューシェアモデルによる収益を計上したほか、『UFO CATCHER TRIPLE』等のプライズ機の販売が堅調に推移いたしました。

アミューズメント施設分野におきましては、既存のゲームセンター業態において、プライズを中心に施設オペレーションの強化に取り組んだものの、新作ビデオゲームが好調だった前年同期に比べ稼働が減少し、国内既存店舗の売上高は前年同期比で100.1％となりました。

映像・玩具分野におきましては、劇場版『名探偵コナン　から紅の恋歌（ラブレター）』が人気を博しているほか、玩具において、『アンパンマン　くみたてDIY　はしるぞっ！ねじねじアンパンマンごう』等の定番・主力製品を中心に販売いたしました。

以上の結果、売上高は502億78百万円（前年同期比7.7％増）となったものの、大型タイトル投入に伴い開発費等が増加したため、営業利益は37億17百万円（前年同期比24.8％減）となりました。

《リゾート事業》

	前年同期 連結累計期間	当第１四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	2,694	2,062	△631	△23.4
セグメント間売上高	6	2	－	－
売上高合計	2,701	2,065	△635	△23.5
営業利益	△898	△735	162	－

リゾート事業におきましては、Paradise Co., Ltd.と当社の合弁会社であるPARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.（当社持分法適用関連会社）が、韓国・仁川において、幅広い世代の方々に楽しんでいただける施設作りを目指した、韓国初のIR（統合型リゾート）となる『パラダイスシティ』を平成29年４月20日にオープンいたしました。また、国内有数のリゾート『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、前期に行った大規模リニューアルの効果があったほか、近隣のお客様を対象としたプランを実施した結果、平成28年熊本地震の影響のあった前年同期より来場者数が28％増となりました。なお、リゾート事業におきましては、前期において屋内型テーマパーク事業の開発・運営会社株式の一部売却等を実施したことから、減収となりました。

以上の結果、売上高は20億62百万円（前年同期比23.4％減）、営業損失は７億35百万円（前年同期は営業損失８億98百万円）となりました。

（２）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第１四半期におきましては、主に遊技機事業のパチンコ遊技機において主力タイトルの販売が好調であったことなどから、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が平成29年５月12日に公表した平成30年３月期通期連結業績予想に対して高い進捗となっております。

当期においては遊技機事業を中心に上期に主力タイトルが集中する計画となっており、下期より各種規制等の変更が予定されていることから、特に遊技機事業については下期における市場環境等を慎重に見極めた上で、柔軟に対応していく必要があります。以上のことから、平成30年３月期通期連結業績予想については平成29年５月12日に公表した内容から変更はございません。業績予想修正の必要がある場合には、速やかに公表いたします。

なお、各事業における今後の動向につきましては以下のとおりであります。

《遊技機事業》

パチスロ遊技機におきましては、主力タイトル『北斗の拳』シリーズの新作『パチスロ北斗の拳 新伝説創造』等の販売を実施いたします。なお、平成29年10月１日以降の新台設置から新たな自主規制が適用されることとなっております。

パチンコ遊技機におきましては、人気アニメ『攻殻機動隊S.A.C.』をモチーフにした『ぱちんこＣＲ攻殻機動隊S.A.C.』等の販売を実施いたします。

なお、風適法施行規則等の改正規則が平成30年２月１日に施行される予定となっております。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

エンタテインメントコンテンツ事業におきましては、『ファンタシースターオンライン2』の大型アップデートとなるEPISODE５の配信を平成29年７月に実施したほか、スマートデバイス向け既存主力タイトルにおいて、各種イベントやアップデート等の実施による継続的な収益貢献を見込んでおります。

パッケージゲーム分野におきましては、PCゲームにおいて、『Total War: WARHAMMER 2』等の新作タイトルの投入を予定しております。アミューズメント機器分野におきましては、引き続き人気タイトル『艦これアーケード』を中心とした、レベニューシェアモデルによる収益貢献を見込むほか、『StarHorse3 SeasonⅥ FULL THROTTLE』等のCVTキットの販売を実施いたします。

アミューズメント施設分野におきましては、既存のゲームセンター業態における、電子マネーの導入を進めるほか、引き続きプライズを中心とした施設オペレーションの強化に取り組んでまいります。

映像・玩具分野におきましては、シリーズ過去最高の興行収入を記録した劇場版『名探偵コナン　から紅の恋歌（ラブレター）』の配給収入の計上を予定しているほか、玩具において『アンパンマン』シリーズや『ディズニー』シリーズ等の定番・主力製品を中心に展開いたします。

《リゾート事業》

リゾート事業におきましては、引き続きリゾート施設の開発・運営や、海外におけるカジノ施設運営等を通したノウハウ蓄積に取り組むほか、国内におけるIR（統合型リゾート）事業の実現に向け、先行投資を加速させてまいります。

国内におきましては、『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、夏休み向け集客企画やガーデンエリアのリニューアルを実施するなど、引き続きシーガイアならではの体験価値の創造を進め、集客強化に取り組んでまいります。

海外におきましては、『パラダイスシティ』において今後も派遣人員の強化による更なるノウハウの取得や日本を中心とした集客プロモーションの実施など施設稼働の向上に取り組んでまいります。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(修正再表示)

該当事項はありません。

（４）追加情報

(耐用年数の変更による影響)

当社は、平成29年３月31日開催の取締役会において、当社並びに首都圏に所在する一部のセガサミーグループの事業会社の本社を移転することを決議いたしました。これにより、前連結会計年度末において、移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更いたしました。

この変更により、従来の方法に比べて、当第１四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ431百万円減少しております。なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。

３．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成29年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成29年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	137,494	143,056
受取手形及び売掛金	44,500	36,076
有価証券	65,203	66,705
商品及び製品	18,669	7,886
仕掛品	14,838	14,021
原材料及び貯蔵品	13,933	11,969
その他	29,805	28,359
貸倒引当金	△329	△227
流動資産合計	324,115	307,847
固定資産		
有形固定資産		
土地	23,740	23,750
その他（純額）	57,869	56,675
有形固定資産合計	81,609	80,425
無形固定資産		
のれん	10,807	10,473
その他	11,352	12,494
無形固定資産合計	22,160	22,968
投資その他の資産		
投資有価証券	69,845	70,669
その他	24,607	26,433
貸倒引当金	△739	△734
投資その他の資産合計	93,713	96,368
固定資産合計	197,483	199,761
資産合計	521,599	507,609

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成29年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成29年６月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	45,631	36,848
短期借入金	6,354	4,373
未払法人税等	2,950	4,059
引当金	7,324	3,322
資産除去債務	303	306
その他	50,001	42,949
流動負債合計	112,567	91,859
固定負債		
社債	32,500	32,500
長期借入金	44,500	44,496
退職給付に係る負債	3,303	3,175
資産除去債務	3,735	3,742
解体費用引当金	420	420
その他	13,076	12,516
固定負債合計	97,534	96,851
負債合計	210,102	188,711
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,953	29,953
資本剰余金	117,521	117,500
利益剰余金	207,639	214,467
自己株式	△54,769	△54,771
株主資本合計	300,345	307,150
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,041	12,326
繰延ヘッジ損益	△71	△51
土地再評価差額金	340	340
為替換算調整勘定	△4,479	△3,106
退職給付に係る調整累計額	588	511
その他の包括利益累計額合計	7,419	10,020
新株予約権	303	432
非支配株主持分	3,428	1,294
純資産合計	311,497	318,898
負債純資産合計	521,599	507,609

（２）四半期連結損益及び包括利益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成28年４月１日 至 平成28年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成29年４月１日 至 平成29年６月30日）
売上高	70,634	107,277
売上原価	42,642	65,042
売上総利益	27,992	42,235
販売費及び一般管理費	24,936	25,616
営業利益	3,055	16,618
営業外収益		
受取利息	67	96
受取配当金	487	499
為替差益	418	－
投資事業組合運用益	16	47
複合金融商品評価益	－	162
その他	255	386
営業外収益合計	1,244	1,192
営業外費用		
支払利息	259	189
持分法による投資損失	322	970
為替差損	－	72
複合金融商品評価損	430	－
その他	302	328
営業外費用合計	1,315	1,561
経常利益	2,985	16,250
特別利益		
固定資産売却益	104	0
投資有価証券売却益	45	432
関係会社清算益	254	－
匿名組合清算益	1,087	－
事業再編損戻入益	－	124
その他	49	－
特別利益合計	1,542	557
特別損失		
固定資産売却損	0	－
減損損失	27	370
関係会社株式売却損	40	－
事業再編損	68	－
その他	24	0
特別損失合計	160	370
税金等調整前四半期純利益	4,366	16,437
法人税、住民税及び事業税	178	4,854
法人税等合計	178	4,854
四半期純利益	4,188	11,582
（内訳）		
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,111	11,536
非支配株主に帰属する四半期純利益	77	45

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成28年４月１日 至 平成28年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成29年４月１日 至 平成29年６月30日）
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,312	1,278
繰延ヘッジ損益	△469	0
為替換算調整勘定	△5,164	810
退職給付に係る調整額	42	△75
持分法適用会社に対する持分相当額	△743	588
その他の包括利益合計	△9,648	2,601
四半期包括利益	△5,459	14,184
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△5,268	14,137
非支配株主に係る四半期包括利益	△190	46

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

前第１四半期連結累計期間(自　平成28年４月１日　至　平成28年６月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			計	調整額(注)	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメントコンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	21,239	46,700	2,694	70,634	0	70,634
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	121	121	6	249	△249	－
計	21,360	46,821	2,701	70,883	△249	70,634
セグメント利益又は損失(△)	343	4,941	△898	4,387	△1,331	3,055

（注）１　セグメント利益又は損失の調整額△1,331百万円には、セグメント間取引消去３百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,334百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

２　セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第１四半期連結累計期間(自　平成29年４月１日　至　平成29年６月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			計	調整額(注)	四半期連結損益及び包括利益計算書計上額
	遊技機事業	エンタテインメントコンテンツ事業	リゾート事業			
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	54,935	50,278	2,062	107,277	0	107,277
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	158	185	2	347	△347	－
計	55,094	50,464	2,065	107,625	△347	107,277
セグメント利益又は損失(△)	15,104	3,717	△735	18,086	△1,467	16,618

（注）１　セグメント利益又は損失の調整額△1,467百万円には、セグメント間取引消去７百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,475百万円が含まれております。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

２　セグメント利益又は損失は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

（耐用年数の変更による影響）

「追加情報」に記載のとおり、前連結会計年度末において、本社移転に伴い利用不能となる固定資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更いたしました。

この変更により、従来の方法と比べて、当第１四半期連結累計期間のセグメント利益は「遊技機事業」で137百万円、「エンタテインメントコンテンツ事業」で256百万円それぞれ減少し、セグメント利益又は損失の「調整額」に含まれる全社費用は、36百万円増加しております。